Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 59. April, 9th 1887.

EDITORIAL:—The Female Regulation System.

LEADING ARTICLES:—School Girls, by Prof. N. Hodsumi: No. II.; Christianity and Position of Woman, by Rev. Mr. K. Ibuka: No. II.

MISCELLANIES:—The Relation between Novels and Theatrical Plays, by Prof. K. Konakamura: No. II.

CRITICAL NOTICE:—Mr. S. Tanaka's "Jogaku Yomihon" ("The Ladies' Reader.").

BIOGRAPHIES:—The Prayer of Mr. and Mrs. Oberlin; "Only a Girl:" No. I.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENTS.

第五拾九號

●社説 妓樓取締の法律

●論説 穗積陳重君演説(女學生に告ぐ)筆記(二)○井深梶之助君演説(基督教と婦人の地位)筆記(二)

●業話 小中村清矩君述演劇と小説との關係(二)○成立學舍女子部始業式の祝文

●批評 田中參氏女學讀本の評

●佳傳 オベルリン夫婦の祈禱○婦人歎(第一回)

●寄書 夫妻同行の説(柳蛙學史)生徒衣服改良提徑(田中常二郎)

●新報 二十九件 ●廣告

●珊瑚の玉 (第二十八回)

○抑も此しげのりの卿を櫻町の中納言と申けるとはすぐれて心すき玉へる人にて常ハ吉野の山を戀ひつゝ町に櫻を植えならべ其内に屋を建てゝ住たまひしかば來る年の春ごとに見る人櫻町とぞ申ける櫻はさひて七ケ日にちるをなごりを惜しみ天照大神に祈り申されければにや三七日まで名殘ありけり(平家物語)

○ジョンニコル氏はバイロンの傳中に論じて曰く英國にて有名ある學者の四分の三は皆な大學の敎育を受けたるもの也大學の敎育よく此等の男學者を造り出せりと云はゞ女子に大學の敎育を與へずして而して女流に有名の學者なしとするは抑も其元を知らざるもの也

○女位女界の著者たる某娘云く夜に入て四面暗黒なれば即ち星光の明なるを見ん女子もし身邊を纒ふ所の光輝物を去らずんば未だ其眞の美を示すとを得ざる也

○坂額を醜女といふ説は吾妻鏡を讀て文義を知らざる誤あり文に殆可レ醜二陵園妾一とあれど陵園妾は白氏文集にもある通り美人なり故にこれよりも醜しとも尋常の婦女は及ぶべからすと云ふあり(梅園日記の一板額非二醜女一の段抄)

女學雜誌第五拾九號
明治廿年四月九日

●社説

○妓樓取締の法律

娼妓の卑しむべき事及び妓樓の全廢せざる可らざる理由は吾人が前號に於て略ぼ論述したる如し然るに此等の事を取計ふ法律は各國とも〴〵に多少の相違あり之を論ずる所の人々も亦個々に意見を異にするあり故に吾人が所云るかの妓樓を全廢し娼妓を全禁するとの利益を辨ずるに當りてハ先づ之に反對する者の正否を論ずると甚だ緊要ならん歟因りて私に此類の反對者を考ふるに其實際に行ハるゝ法律及び其世に現ハるゝ議論各多少の異同ありと雖も之を大別にする時は即ち二種に歸するを得べきが如し」其第一は社會現今の景況を以て見るに娼妓なるもの到底全く除き得べきにあらず如何にしても到底除きがたしとならバ法律を以てよく之を治め適當の規則に隨ふて之を世に存せしむるの外あるべからず故に一定の場所に妓樓を設けしめて嚴しく之を管理し娼妓は時を定めて之を撿査し惡疾の蔓延を防ぐ樣の手段を用ひ寧ろ公然に之を許可して隱賣の弊の更に恐るべきを豫防するの外良法あるべからずと云ふ也之を制度法と稱す外國に所云るフヒーメール、レギウレーション、システムなるもの即ち是なり。又其第二は政府の手に斯る種類の關渉をまで爲すべきにあらずわざ〳〵手を下して黴毒の撿査をなし妓樓を保護して特別なる利益を之に與ふる如きハ必竟無益の事なり寧ろ之を自由に放任して利害ともに其結果の現ハるゝ儘に任じ彼の卑しむべき所行を爲して愧ぢざる者は世人が之を待するの如何と之が爲に起るべき疾病とを以て自ら制し自ら治めしむるを宜ろしとは云ふ也之を放任法と稱す西國に所云るレッチング、エローン、システムなるもの即ち是れ也。右二種の中第一は我國及び佛蘭西、ブラシル、等其外に行ハるゝものにて其間に管理法の嚴なると緩なるとハあれども要するに皆な制度を設けて之を公許すべしと云ふに歸すべし第二は專ら倫敦に行ハるゝ所にして其餘ハ論者が往々之を空論に發するに過ぎざれども近頃吾國に於ても亦た右に類似する所の意見を公にしたるものあるが故に併て之を辨ぜざるを得ざる也

偖ても此二種の取扱方を批評するに先ちて先づ心得置くべきものあり即ち娼妓なる者ハ一日も早く世より除かざる可らず妓樓なるものゝ公然存在するハ決して喜ぶべきとにあらず必

竟止を得ざるの勢よりして暫らく此等を存すると雖も終には之を廢滅するに至らんとを希望し此希望の一日も速に相達せんとは更に熱心に希望する所ならざる可らず思ふに今の娼妓を尊敬するもの及び妓樓の存廢を論難するもの双方ともに皆か、る希望を有するとならん若し然らざれば則ち本論の如きものを題として堂々の辨を費すは全く無用の勞に歸すべし故に吾も人も斯る卑劣の物は速に社會より離れ去るべしと祈願して偖て當今の場合には差當り之を如何にすべきやと云ふに彼の第一種の論者たるものは則ち制度を定めて之が取締を爲すべしと云ふあり然るに此取扱は以て彌よ世に娼妓を多くするの途となり以て彌よ此の卑劣なる職業を卑まざるの習となり以て彌よ世に放蕩人を增すの便となり以て彌よ世の德義を破り家内の安全を害するの基とならんには實際に於て其制度は反つて只だ世を毒する所の害物となるべし試に見るべし我國妓樓の制は之を昔日に比するに幾層の精密を加へたり保護監督殆んど至らざる所なきなり然れども之が爲に娼妓の數は年々に減ずべきかと云はゞ寧ろ年々に增加して止る所を知らず放蕩の客は之が爲に減ずべきかと云はゞ斯る保護に委賴して日々に豪遊を試み彌よ安心するの趣あり然らば世上に於て之を遇する所の感覺は何如んと云ふに既に政府に於て斯る管理を之に施さるゝを謝し何人も亦た其の卑しむべきとを悟るものなし記者は之を新聞紙面に記し小說家は之を好材料として談話を作り士君子は宴會の席に之を公言し父子共に妓樓の談を聽て相ひ娛樂する如きは殆んど文明國に於て見るを得ざるの景況なり只だ夫れ近來外國人との交際盛んなるが爲に心あらんものは少しく之を憚るやの氣味ありと雖も其人の心中固より之を忌むにあらざるが故に時に乘じて誇り顏に之を發言し漸く自由を得たりとするの趣あるは吾人が每度實見して嘆息に堪ざる者也社會の輿論すでに如此なれば淫聲しきりに往來して家に淸潔の和樂を見るを得ざるは眞に免るべからざるの決果なりとす試に當今やゝ嚴肅の行ありと云へる士君子に就て其言ふ所を聽くべし「若年者が一度び放蕩を爲は奇しむ可にあらず」「月に一二度の遊蕩は決句勇氣を增すの德あり」などの言語を發する者少からず甚しきは讀書勉强に餘念なくして遊里の摸樣をも知ざる少年あるときは其父母たるもの反て之を憂とし「餘りに因循なれば癆瘵など病みては相成らず」などとて密に心配し反つて一二度の遊蕩を心に祈る如きあり少かにても眞正の道德を知れるものには此の樣の事眞

に喫驚の外なきなり世上の父母すでに如此なるが故に子弟も亦た遊里を以て左程の惡所と思はず習性となり風習一般の行ひとなりて淫聲如此く流行するが故に芳原ハ常に光を發して家内ハ大率ね暗夜に均し夫婦の間柄甚だ冷淡にして清潔の交り決して得べからざるなり何んとなれバ夫ハ若年より女子を心の儘に弄ぶの習慣に安んじ今も尙ほ之を玩弄物とするの便利世に存するを知れバ妻に限りて之を優待し之を特別の女子と見做すべきの理なし勢また之をしも同樣の道具として勝手に取扱ハんとを欲するが故に妻も亦た敢て之に逆ハず只唯之に屈從して敢て夫の機嫌を損せざらんとするが故に男尊女卑夫驕妻屈の風決して除くべからざれバなり娼妓を公許して妓樓を保護するの決果すでに如此して其傾向は敢て退歩せず日に日に其害の行ハるゝ太甚しきを見れバ彼の所云る制度なる者は吾と人と共に祈願する所の目的に對して世を進るものにあらず反ていよ〳〵之に達するの道を遠くするものと云ふべし然らバ此制度あるの利ハ實際に現れ來らずして寧ろ其害を見るとの多きを覺ゆ遺憾の太甚しきものにあらずや

但し此の制度法の効能なきとは決して吾人一己の私言にあらず又吾國に就てのみの經驗にあらず歐米に於ては夙に其議論あるのみか實際に於て其無効能を證明したるもの甚だ多きが故に次に其二三の實例を示して此論の確實なるとを證すべし

●叢話

○女學生に告ぐ（其二）　穗積陳重

先づ第一に衣服の事に就き一言を陳べましやう。衣服ハ身體の温氣を保つ爲めの物です。然し乍ら衣服ハ温氣を保つ丈けの用をなせバ夫れにて足れりとし、其色合、恰好、着樣等には少しも注意しなくてハいけません。女學生には往々ある事ですが、衣服の着樣恰好等甚だ不注意にして、帶が背後へベラリと垂れて居る事がありますし、上前へと下前へが上り下りして居る事がありますし、衿の邊がゴチヤ〳〵して居る事がありますし、世の中の人が女生徒ハ一見して分ると申しますも、衣服の着かたなどが一つの目標となる者と見へます。尤も是れは無理のない所もあります、毎日の學業が世話しく、且つ之に實が入るとツイこう成り易ひ者です。男の方にも學者やら、學者の眞似をする人で隨分衣服などの事には不注意な人があります。然し乍ら婦人方は別して衣服は身體を温むるの用の外に、身體を飾るの用を爲す者じやと云事を忘れてはいけま

すまい。衣服に就ては特に經濟と美術を兼るの注意が大切て御坐います。故に何卒華奢に流れずして優美ならん事を希望いたします。

洋服の事に就ても一言いたしたふ御坐います。近頃あなた方の中にて、二タ子其外平服に適する服地にておとなしく上品なる洋服を御拵へに成りましたは誠に結構な事でして、前に申す經濟と美術を兼ねた者と見受けます。只今は日本にて洋服の行れ始めたる所ですから、別して洋服に變ずる費を省き洋服に移るには無暗に費が多いと云ふ樣な感じを與させぬ方が宜しいと思ひます。夫れに付きまして西洋のファッション即ち流行と申す事は甚だ馬鹿らしき事じやと思ひます。西洋にては昨日ハ增上寺の釣鐘か淺草の仁王門の灯提を見た樣な袴が行れ、友人を訪問するも入口が狹くて門口より歸らねばならぬ事があるかと思へバ、又今日ハ應擧の畵ける幽靈の樣なるもすろが流行り、夜會に招かれても二階に上る事が出來なかつたと申す奇談が、私がイギリスに居る時分にありました。必竟ファッションと云ふ物ハ美術より出るものでハ御坐いません。仕立屋の金箱から出る化物で御坐います。

次に髮飾の事を一寸お話し申します。髮の結樣も用と美を兼るが肝要でそ。文金の高髷芝居のお姫樣のビラ々簪ハ成程美ハ美ですけれ共之を結ぶに時間を費し實業や運動に適せず、是れは美に偏重した物であります。束髮ハ誠によろしい、然れ共束髮の便利を尙び、少しも髮飾ハかまわぬと云ふ樣な流儀が時としてあるにハ閉口いたします。獅子の洞入り三世相の荒神も餘り感心いたしませぬ。故に同じ束髮でも便利衞生等の實益の基礎の上に、幾分か美術の飾りを加へられん事を希望いたします。

第三には動作の事に移ります。動作に於ても矢張り實益と美術を兼ねずば成りますまい。衞生にかない實業に適する動作ハ即ち實用ある動作です。そこであなた方に對しては甚だ失禮で御容赦を願ひますが、一般に申しますれば、日本の婦人には三つの惡き癖があると申します、ろして其三つの癖ハ身躰の上中下の三段に分れて居るそふです。先づ第一には內足に步行事、第二には前に屈む事、第三には頭を前に突き出す事の三です。斯ら頭も腰も足も惡ひと申せば殆んど身躰中悉く惡く兩手計りが幸にして非難を免れた樣な物です、決して失望するに及びません。皆な直る事です。內足と前に屈む事ハ生理上如何なる害があるかはあなた方も既に御存じの事と

思ひますから、今日ハお話し申しません。首を前に突き出す事は或る御醫者が日本の婦人の首ハ菓物か、何かの樣に胴になつて居ると申しましたが隨分酷な評です。然し私の考へますると是ハ元と髮の結樣より起りしものであらふと思ひます、タボを出しまするとドーしても首が前へ出る勘定です、試みに日本風の髮の結ひたての婦人を御覽なさい。タボが後ろの襟につかへ、餘程苦しさふで左右へ振り向く事さへ不自由の樣に見へます。是ハ束髮になりまするとタボがなく成り、又洋服になりますると平服ハ胸が開ひて居りませんから自然に直りましやう。又右の三つは聯續して居る者でして頭を胸の前より肩の上迄持上げまするると自然と腰も延び又足も直る樣になります。右の三癖の中ドレから直し始めても宜しいと申す事です。

右の如く腰を屈め、首を突き出し、内足に歩行くハ、美術に適つた位置でしやうか。優美な姿勢でしやうか。決してそふではありますまい、實用にも美術にも適わぬ者と思われます。西洋の學者も姿勢を論じ「生理に適ひし運動ハ最も優美なり」と云ひ、又「優美とは生活力を撿約したる位置及運動なり」と申しました。然らば姿勢動作に付ても美麗と實益を調和するハ容易な事で御座います(未完)

○東京婦人矯風會大會演説録

井深梶之助君演説(基督敎と婦人の地位)筆記(二)

又こゝに申さねバならぬ事が御座りますがキリスト敎で申す一夫一婦といふことハ公然さへ一人の妻を持て居れバ内證ではドウいふ事をしても苦敷ないといふことでハ御座りません。陰陽内外の別なく神の前に在て眞實に一夫一婦の道を守ることで御座ります。一夫一婦と申しても此處に雲泥の違が御座ります。儒者の敎にも妻が夫に對して貞操を守るべきことハ隨分喧しく説てあるやうで御座りますが夫が妻に對して貞操を守るべきことはトント説てないやうで御座ります(謹聽謹聽)然しキリスト敎に於てハ夫たるものも妻たるものと同樣に貞操を守るの義務あることを敎へます。此義務に於てハ決して男女の區別ハ御座りません。雙方共に貞操を守るの義務ある者で御座ります。然し是迄の考でハ妻たる者ハ必ず貞操を守らなければならぬが夫ハ必ずしも守るに及ばず妻が貞操を破れば忽地離別されるけれども夫が放蕩をしたり或ハ妾を蓄ひても妻ハ何ともいふことが出來ず只出來ぬのみか彼れ是れいふのハ反て惡いことになつて居ました。ナント無理の敎

てハ御座りませんか。ナント不都合なことでハ御座りませんか。此の如き風が行はれて居る中ハ決して婦人が正當の地位を占め眞正の幸福を受ることハ出來ません。又是から起る所の弊害不幸が何程だか知れません。キリスト敎ハ即ち此無理壓制を取除んとする者で御座ります(喝采)。

第二ハ聖結婚の敎即ちキリスト敎に於てハ結婚を以て神の定めたまふた律法とする事で御座ります。一夫一婦の敎の大切なことハ前に述た通で御座りますがたとひ一人で多くの妻を持ち又ハ妾を置くことハせんでも若し何時でも勝手次第に妻を出して他の女を娶ることが出來てハ一夫一婦の敎ハ何の役にも立ません。自分の氣に入らぬと云つてハ妻を出し子が無いと云つてハ出し自分にハ氣に入つても兩親の氣に入らぬと云つてハ出したらドウして一夫一婦の敎が立ませうか。誠に耻しいことながら恐くハ世界中に我邦のやうに離緣の多い所ハありますまい。其ハ兎に角に今日我邦に於て離緣の造作ないことハ誰も能く知て居ることで心ある者の常に憂へ且耻る所で御座ります。然れバ此惡風を改るのも今日の一大急務で之を改るにハ矢張キリスト敎の力に依らなければなりません(喝采)。

曾て或人がキリストの許へ來て「人ハ何の故に係らず妻を出しても支障御座りませんか」と問ふた時にキリストハ之に答へて「元始に神ハ人を男女に御造なされた故に人が夫婦になれバ最早二でハなく一體である神が合せ給ふたものを人が離すべき筈ハない。姦婬の故でなくして妻を出して他の女を娶る者ハ姦婬を行ふもので其出された婦を娶る者も又姦淫を行ふものであると仰せられましたが是が即ちキリスト敎の結婚の道で御座ります。キリスト敎に於てハ一旦夫婦になつたからにハ姦淫の外にハたとひ如何樣なことが出來ても決して離別することを許しません。尤もキリスト信徒ハ其代りに妻を選ぶのも最も注意して決して輕々しく婚姻ハ致ません。(未完)

○男女相擇ぶの說（六）

西村茂樹

然らば西洋諸國ハ何故に男女自ら其夫妻を擇びて善く幸福を得るかと云へる疑問起るべし蓋し西國にて男女自ら擇ぶとハ古來よりの風習にして最初ハ父母にて擇びし者を其利害を考へて改めて男女自擇ぶと爲したる者にハ非ざるなり又支那にて父母其子の爲めに婿婦を擇ぶハ是亦古來よりの風習にして最初ハ男女自擇びたるを其利害を考へ後に改めて父母の選擇と爲したる者にハ非ざるなり此の如く東西其風習を異にせ

るハ其人民の性質に因る者なれども其原因を尋ぬるに東洋ハ古來より父子同居を貴び西洋ハ父子別居を常とするの習慣より起りしなるべし父子同居の風古より今に至りて變ぜざるを以て男女自擇ぶの風も亦之に從ひて變ぜざるなり既に此風習の永久に存するときハ社會百般の事物皆此習慣に適合するが如くなり居るを以て男女自擇ぶとハ兩姓の爲めに甚都合よきことなるなり加ふるに西國にてハ女子の敎育法あり女子の交際法あるを以て益男女自擇ぶの便利を見るに至りしなり然れども男女自擇びたりとも決して夫婦不和の者なしと言ふべからず夫婦離緣のヿなしと言ふべからず其夫婦の間の幸福ハ如きハ我邦の禮儀ある種族と何れか多少あるか未だ容易に之を斷言するヿ能ハざるなり本邦の如きハ選擇に一定の方法なしと雖も禮儀ある家の如きハ從前ハ父母の選擇するを多しとするヿなれバ社會百般の事物皆父母選擇の爲めに便利なる如くなり居り又女子の敎育法もなく交際法もなく又古來父子同居の風多く行ハれしを以て今日に至るまでハ嫁娶の便利ハ父母選擇の一方に傾き居る者の如し然れども其夫婦間の幸福ハ恐くハ西洋の夫婦と大に相異なるヿなかるべしと假定するなり其故ハ父母の選擇にても自身の選擇にても共に此同社會中の男女を擇ぶヿにして自身に擇びたりとて其爲に上帝別種の男女を造りて之に與ふるヿ無けれバなり(未完)

● 叢話

○小說と演劇との關係(二)

小中村淸矩

次に古きは宇治保物語この作者も源の順など云へど未だ詳らかならず物語に俊蔭の卷とか吹上の卷とか云へる標目の見へたるは此書を始めとす思ふに佛經に提婆品普門品など云へる品目を立てしに據れるか其れは源氏物語の標目は佛道に據れりと云ふ舊說の有るにならひたる小生が臆測にして附會にも有るべし次に伊勢物語源氏物語と繼々文章も趣向も巧妙なるもの出來し殊に源氏物語は非凡の大筆にして和文を作るにも言詞の學をするにも必用の物なるは云ふまでもなし次きに狹衣取替へばや住吉の類の種々の作の物語顯はれ(今亡しも多し)後には榮花物語繼世繼水鏡など實事を記せる書にも卷々の標目を立て小說めかしくしたるは同躰の假名文なる故なるべしさて伊勢源氏の類の物語はいさゝか有し事を本として作り廣めたるもあり又全く無き事を實有の如く記したるも有て一樣ならざるが到底長日や雨夜杯の徒然を慰る爲か又は上等

社會の人に世の中の人情世態を知らしめん心組にて作りしものと見えて作者は多く女流なりし故にまづは婦人の心得に依れる方あるがかの勸善懲惡など云ふ向にてはなく人情を專らとして書たるものと覺ゆ故に人情の中にて最も切なる男女の間がらの事多し（古く勅撰の歌集中に戀の部を立しも此意なりと云へり）但し折々には天人や妖怪の出る位の奇異ある事も交へてあれど源氏物語などは五十四帖もある大部の物なれど概ね源氏の君其他の人々の平日の動作言行を記し其間に時々の景色と歌とを交へたるのみにして極はめて平坦なる物なれど能く味はひて見れば得も云はれぬ面白みのあるは今の學者の云ふ眞理に近き故にもあるべきか

さてちと演説が横道に入るやうなれど終には小說の事になる話ありそれは源氏物語の頃（一條天皇の時代）の風俗の事にして其頃の人は自家と相偶ひせる程の家に良き女ありと聞けば先づ便りを求めて公然と文を通じ其返書の躰歌の善惡などを考へて心にかなへるには心ざしを盡して云ひより又女も男の文の躰や風聞によりて床かしくも嫌はしくも思ひ其親たるものも其文を見て己れの心にかなひたる人ならば女を勸めても返書をかゝせ心にかなはずば聞き出すと直ちに制するもあり故に媒とも云ふ可きものは其文の取次する人なるが多し貴人さへかゝる風なりしかば下等の人の狀は思ひはかるべし（以上萩原廣道の源氏物語評釋の說による）漢學家より謂はゞ淫奔の風遍ねき如くなれど此れ我國上古よりの風習を存せるものにして（孝德天皇以來制度は漢風となりしにも拘らず）云はゞ西洋の自由結婚に近し故に源氏物語箒木の卷に雨夜の品定めとて源氏の君頭の中將外兩名相集りて世間の婦女の品評種々ありて終ひには女の種姓にも容儀にも藝能にも依らず只眞實貞靜にして事に當り思慮ありぬべき婦女を妻と思ひ定むべき議論にやゝ落着したる妙文あり此れ前件の如き風儀なるが故に男子たる者の妻を定むべきは不容易なる旨を忠告したるもの〻如く女子も亦此意を得て注意すべき誡なるは勿論なりかゝる風俗の事狀は當時漢文にて記したる雜史類のみにては如何で知らるべき全く虛實を交へたる假名文の物語小說の今世に傳へたればこそ千年の後までも明白にして今世歷史編纂の資となれるなり

其後保元平治物語、源平盛衰記、平家物語の類は文章も面白く實に目前に見えたる如く書たるも有れど文章の飾りが有るだけに或ひは小說が交りてはをらぬかと思はる既に前日學士會

院にても重野先生が太平記は古島某と云ふ小說家の作にて信じられぬ事の多分交りて有る旨を演說されたりまして曾我物語、義經記、は事實よりも作り事の方が多分と思はる然るに猿樂の能より今の雜劇に至るまで此二書に載せたる事を採たるが多ければ安宅の關にて辨慶が勸進帳を讀み又は箱根にて工藤祐經が箱王丸に對面して赤木の短刀を與へたる類の事を今は實說と思ひたる人多し

足利の時代には物語を作る事やゝ廢れて草紙の世となり畫卷物流行して福富の草紙（善惡の翁媼の事跡を記す）鉢かつぎの草紙（繼母に虐せられたる淑女の談）文正の草紙（常陸國に在し大福長者の談）など種々畫入の慰本出來したり是れ後に畫上へ說明を加へたる草雙紙と云ふ物の濫觴にしてかの桃太郎かち〳〵山舌切雀などの話も此頃に出來たるものかと思はるかゝる亂世の時代にも却て此樣なる玩弄物は廢れずにや夫より德川時代に至り寬文天和の頃より淺井了意（東海道名所記御婢はふね、其他の作者）井原西鶴（一代男一代女其他の作者）の類の小說家ありて種々の作出來せしが其書の詞つきより趣向の立て方まで最も卑俗にして下等社會に賞せらるゝを以て目途とせしものゝ如し然るに其時代の人情風俗を知るには最も宜しきものにして（さし繪亦同じ）後に馬琴などの趣向を古めかしくて高尙に構へたる物よりも考證の資となれる條多し降りて正德享保の頃には其磧、自笑、など云ふ作者ありて西鶴の風によります〳〵俗耳を喜ばするを手がらとし遊里の事態の類を多く記せる八文字屋本と云ふもの流行し明和天明の頃には一變して洒落本となり戀川春町芝全交の輩の赤本作者の手に落ち又元祿の頃より前太平記、前々太平記の類の軍記小說を實錄の如く作爲し後には眞田三代記難波戰記又は伊達騷動とか加賀騷動とかを種々拵へて貸本屋の料となりぬ是は大かた淨瑠璃作者の類の所爲ならんとの說あり實に我國の小說は此頃に至り地に墜ちぬ（稀れには風來山人の如き錚々たるものあれど寓意する所ありて滑稽を專とせりと覺ゆ）其頃京傳は元來洒落本草双紙の作者なりしが後には繪入讀本の作專らにして其趣向は多く淨瑠璃本に出でたる物ありしかば其作たる稻妻双紙、醉菩提の類近世專ら劇場にて用ゐたり又三馬一九は平常の通語を用ゐて滑稽を述る事に妙を得、爲永春水も日用の語を以て一家の人情本を作たるが共に洒落本の平語の作より成來れるものありさて京傳以來三馬も種彥も（其他の下手作者は論ぜず）皆畫入讀本を作たれど基とする處淨瑠

璃本に出たれば奇怪の事は勿論自殺や慘酷なる事多ければ全編を讀むに堪へざる者あり馬琴の作も始めの程は同じかりしに晩年には甚だ注意し劇塲形ちの體を止めて專ら意匠を唐山の小說に向けて著作し改良の狀を顯はしゝは人に勝れたる所有る故あるべし

右略述する趣あるが故に我國の小說も昔物語の中にて源氏物語などは當今云ふ人情の眞理に近きものありしが其後の草紙に至りては勝れたる上手あらざりし故に唯だ昔話を述べたるのみ德川時代の戯作者は人情には隨分渉りたれど至て卑俚あり又古への狀になして仕組たるものは浄瑠璃と數歩の違ひある程の事ありければ到底婦女子の玩物として士君子は見るを恥ずるやうある景狀ありき小說の來歴は是までとして演劇の事をいさゝか述ぶべし

〇女學校新設の祝文

左は成立學舍女子部の始業式に臨み巖本善治が朗讀したるものゝ寫あり

明治二十年四月一日櫻の花將さに綻んとするの節に於て成立學舍女子部開校の式を擧らる生之に臨みて敢て蕪詞を呈して云く方今女子敎育の道大に興りて各所に女學校の設立を見る大凡そ意を斯學に注ぐ者の皆齊しく慶賀する所也特に文運の如此のごとくなるもの畏くも我英聖文武の　皇帝陛下夙に維新の大業を成し給ふの當時に基し又我貞良淑德の　皇后陛下夙夜に我皇帝を補佐まし〳〵て本邦婦女子の爲に美風を示し給ふの惠みに由る事を思ふ時は我等臣民たるもの此の太平文明の世に生れたるとを謝し奉りて彌よ之が爲に感奮せざるを得ず而て今此女子部開校の典に陪しては更に慶賀を厚くして一層の奮起を要するものあり抑も陰陽性を別にして男女自ら質を異にす故に女子敎育の事固より從來一般の敎制を以て同視すべきに非ず若し剛毅勇敢の偉丈夫を養成するの法を用て均しく之を女子の敎育に施さば淑雅優美の女德は徒に理想の佳人に屬して我大和の女流に於て見る事を得ざるべし昔し清女は雪の朝に簾を揭げて名を香爐峯の嶺ゝ留め式部は一丁字を知らずと云て只だ其日記中に史記敎授の譽を殘す清紫共に千古の秀才と雖も論者多く少納言の頓才を以て優美の德を欠くとし式部の謙遜を以て自ら淑雅の風に富む者とせり且や女子は後に人に嫁して良人を助け又兒女の母と爲て之れを敎育すべきものあり故に寧ろ自ら刄を提げ政を施すとあくして家に英雄を

助け庭に學士を育するを以て其任とするを可とすせウジ、イリチット女史は英國の秀才あり著述二十巻一世を聳動して男子を愧死せしむ然れども女子が家政内治を顧みざるを以て非常の不德となし朝夕必ず筆を擱て家政を調理し能く其良人を輔たる者は之が爲なり大凡そ今の時に當て佳人を養成する者は勉めて意を此等の事に着するを要す但だ世上幾多の女學校中専ら智育を盛にして德育を顧みず德育を行ふ者尙ほ男女其質を異にする所以を顧みざる者あり吾輩閨秀淑女の爲に遺憾なき能はざるなり中原君亦之れを慨して則ち此校を開かる敎育の制専ら時弊を救ふに在り故に本校に入る者は高尙なる文學理學を學ふの傍ら洋琴和琴の技に優美の德を養ひ茶湯挿花の藝に淑雅の風を傳へ衛生經濟の敎に内治の心得を學び裁縫割烹の術に女藝の習慣を造るを得べし如此して豊艶の櫻花旭日と共に長へに香ひて式島の大和娘孃限なく此校に成立せば　皇帝皇后兩陛下の恩旨に奉答して能く文明の恩澤に報ずる者と云ふべし故に本校と其生徒との成立するは延て日本女流の德を成立するに於て關係する所多し當路諸君の任重くして榮の大なるを見れば生等特に之れを慶賀して將來益々其興起を佇望せざる可らず終に感を記して以て祝詞に代ふ巖本善治謹言

"She does not look at things from the proper feminine angle; She is a good creature, that fine girl, but a little too earnest." George Eliot's "Middlemarch."

○批　評　（第二十一回）

(24) 女學讀本　中本一册(五十葉)定價二十二錢　發兌所東京卅間堀一丁目九春堂

此書は田中參氏が編著にして巻末に小西豊之助氏が訓解を附したるものなり全巻を德、容、言、工、事夫、敎子、守節、誠、の八章に分ちてそれ〴〵丁寧に論述せり女子の心得となる所も少からざれども全躰の精神悉く女大學女誡等の主旨に均しく當今文明の世に適せずと思はるゝ者多し例へは

父母に事ふるには禮無かる可らざるに四海萬國此禮を記したる書少し獨り詩、書、易、春秋、論語、孟子、曲禮、内則、などに散見せる有るのみ

と云ひ又た男女の交際を述る條に

男は内を言はず女は外を言はず祭に非ざれば器を相授けず相授るとあれば女は受るに篚を以てし篚無ければ相與に座して之を奠きて之を取りて手づから受授せずと有り此の如くなれば男女私に相褻れるの患無く穴隙を鑽り東家の處子を摟くなどの事は決して無きの事なり

と云へり但し之を儒敎女學の一斑として見る時は編者の苦辛

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

讀む人の爲に裨補する所少からざるべし

Thy heart can feel, but will not move;
Thy soul, though soft, will never shake.
Byron.

●佳傳

○チベルリン夫婦の祈禱

佛蘭西の北東石谷と稱ふる所に昔しゼームスチベルリンと云へる有德の宣敎師ありけり未だ妻を迎へざる比ろ妹と同居したれバ妹の友人ウイッター孃と申すが或る時來りて暫時遊び居たることありて之より先きチベルリンに再三婚姻の世話したる人もありしに生得愼み深くして特に信仰の厚ければ容易く大切なる妻を定めず只だ神の賜ふ善きものを娶らんとは思ひ居たり然るに此ウイッター孃とは意氣相投合して眞の愛交あり特には何となう神が御告の樣ありと覺へて千慮の後遂に之と婚姻することと定めぬ其始めすでに如此く淸潔なる交と望とを以て結びたる緣なれバ伉儷甚だ睦まじく淸よきと人に示すに足るさすがに宣敎師の夫婦とて人も感じ合へるとあり或る時二人して神に捧げたる祈禱の語に云く

聖靈なる神よ願くは吾等の心に降り今ま眞心より出る熱心を以て祈禱し得べきやう吾等を助け玉へ。吾等の惠深き父よ願くは今まアナタの子供等をしてアナタの御前にあらせ吾等に無くてならぬ者を祈ることを得せしめ玉へ。願くは吾等をしてアナタに於て互に相愛し亦た救主イエスキリストに於て吾等共に其肢なることを以て相愛することを得せしめ玉へ。願くハ吾等をして常にアナタにのみ委賴しアナタの御前に步みアナタに依りて相共に一致し吾等が日々共に靈の生長を爲し得るやうに許させ玉へ。又願くハ吾等をして信實に吾等の義務を盡させ之が爲に吾等をして互に相勵まし吾等ともゞに相諫めイエスキリストの血に依りて共共に許を祈るやうにならさせ玉へ。吾等斯く共に祈る時主なるイエス吾等の上に在り亦吾等をして倚更に屢ば斯して祈ることを得せしめ玉へ。チー天に居ます父よ願くハ吾等の熱心を燃やし玉へ。願くハアナタの聖靈が吾等に敎へ玉ふ所の者をイエスキリストの名に依りて吾等に與へ玉へ。アナタは此世に於て吾等の家內にある者等を吾等の支配に任せ玉へばアナタは彼等をアナタの御心に適ふ樣に導き得る爲に吾等に智慧と力とを與へ玉へ。願くは吾等をして彼等の前に善き例を示し昔し其子と其家族とを指揮したるアブラハムに倣て正しきを爲んが爲に主の道を步むべき樣彼

等を導くとを得せしめ玉へ。アナタハ若し吾等に子供を與へ之を吾等に保たせ玉ふならば願くハ之をアナタの御役に立つべき樣に育て早くよりアナタを知りアナタを畏れアナタを愛し又アナタに祈禱するやうに敎ゆるとを許させ玉へ又願くハ此子供等が洗禮を受るの日に約束したる通り其の搖籃にあるの日より墓に入るの日まで始終信實にあり得るやうに許させ玉へ。ヲー天に居ます父よ願くは吾等をして一生の間アナタの御心に從ひ此子供等にアナタの御道を敎ゆるとを得させ其起る時にも其の寢ぬる時にも家に在る時も外に在る時も何如ある事情に在る時も常に温和と愛と忍耐とを以て之を敎ゆるとを得させ玉へ。此子供等ハ只だアナタの御恵により生命を得てアナタの御前に來ることを得たるものあれば願くは彼等をして此敎を受るに耐ゆるやう在らさせ玉へ…………アーメン

右夫婦の祈禱ハ基督敎に依りて相結びたるもの丶共に相交る淸潔なる趣を示し又よく基督敎信者の夫婦が共に願ふ所の望を示すに足るあり

○婦人歎（第一回）

玆に語り出づる長物語ハ元と獨乙の國の或る邊にて某と云ふ女秀才が一生を記したるものあれども今ま讀む人の解り易からん爲に人名地名を悉く己れに譯し言語樣姿をも成るべくハ我が國風としたり此の女秀才が一生の經歷ハ恰もよく婦人の世に待さる丶有樣の變遷を寫し而も後に至りて遂に完全たる佳人とあるの趣を示す所ろ甚だ世の敎と爲すに足れバ讀者若し其心して終に至るまで通讀あらバ大に悟る所あらん歟但だ我が國の實際には未だ倚かゝる女子あしとて批難すべき場所もあらんには其は原本の彼地に成れるゆへと容して專ら主意の在る所を味ひ玉ふべし　　月の舍主人　しのぶ　錄

偖ても顧れバ早や二十年餘の昔あらん大和の國の或る片ほとりに大ある家宅を搆へて所有の田地幾百町歩を支配する富限ありけり主人と見ゆるは最とも偏屈の質にて世の交際を嫌ひ特に吝嗇にして人に施すとを知らず然れバ數多ある小作人出入の者等も成べくは遠ざかりて玆に來るを好まず只唯悪さまに評判して大和の無慈悲者とハ語り傳へぬ然るに其妻は心きゝたる者にて生來慈け深かければ之を賴みに彼此と申すものもあれど或る年一女子を産みて産後の難みに果敢なく失せたるよりは婢僕に至るまで多くは忍びかねて一人二人と逃がれ出でぬ主人は結句之を經濟と考へて心に樂めども生れたる

赤子を育つる爲には是非とも姆を置かずては成らず切めて若し此兒が男子にてあらんには最愛の妻を失ひたるの代とも見るべきに人間の數にも入るまじき女郎ならんとは重々の不幸なり女が成長して人と爲りたればとて吾身に何の助かあらん意氣地なきものに一生の介抱を費してわざ／＼之を育てんも眞に惜しむべきの散財なれども然らばとて又今更に之を失ふべきにもあらずよし／＼最後の窮策として姆に煑燒の事を托し二役を兼て僅かの給料に一人の女を雇はゞ過分の入費も掛るまじとて漸くに心を定め年老たる一人の女を雇ひぬ當時此無慈悲者の家に出入するは年貢の滯に止を得ず低頭平身して延引の斷するものゝ外は其閾を踏むすら偷ほ快しとせざるもの多し何人か之に雇はれて僅かの給料に身を安んずべきや然るに此度かの姆と婢とを兼て玆に來りたるは名をころ由とは稱ふれ腹最と黑き中々の姦婦なり吝嗇の主人に侍づき月若干の當飼を受て滿足すべきにはあらねど心に何事をか圖る所ありけん喜び勇んで召に應じ我夫は一方ならず御家の御恩を蒙り何事をか御報ひしてと申し乍ら先年果敢なく死にましたる以來切ては亡夫の志の万一をも果すべき折のあれかしと祈念いたしたるに此度の御仰せは是れ亡き夫が草葉の蔭より引合せ申したるにて候はん斯る御時に御介抱申上ずては何の日にか海なす高恩を報ひ侍らんなど殊勝に言まはして玆に仕はれたるが彼の主人は朝より夕迄飲つゞけて酒氣を絶たず娘も由も別段の仕事なければ日に三度の食事は少しく多すぎるなど小言いふは是又酒の上の戯れかと思へバ此時のみぞ本性を現はしたる景色と見へたり斯して八九年を事もなくて過すうちに主人は永年の酒毒に身を破りて中風の症にかゝり此頃は全日床の上に臥したるまゝにて立居も自由ならず口のみは甚だ喧しう叱り散らせど身動きのならざれバ万事たゞ由の爲すが儘なり但だ愍れむべきはかの一女子にて生れて既に母を失ひ狼の如き悪婦の亂暴に育てられて心に慈母の愛を知らず父は朝夕酒に酔ひて狼藉至らざるなきに稍や酔の醒めたると思ひて親しう居寄れバハゝタと突き退け汝の如き者が生れ來れバこそ母も死したれ女などがあれバとて世に何の効能があらうや何故男には生れては來ぬぞ女々しき樣に生長して一生親の厄介になるやうなる者は當家には不用だなど罵り散らして火の如くなれバ偖ては我身は何故にかゝる女とは生れたるや抑も妾女なればとて何如なるとか男子とは相違せるや此近邊に遊びつどふ子供等の爲す程の事は妾にも出來べし石を投げ木

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に登るとて試みて爲しがたき筈やあらん妾が男子なれば父上も愛し玉ふとならば之よりは男子と同樣の事いたして父に見せ申さんと覺悟しつたゞ〳〵童兒等が遊びたわむるゝ樣を伺ひひたすらに之を眞似んとは考へける

●寄書

○夫妻同行の說

上總貝洲　柳蛙學史

余輩一日或學者先生を訪問す時談偶女子敎育の事に及ぶ今先生の說く處女子敎育論旺盛なる當今に於て頗る適切なるものと思料せるを以て爰に筆記して貴社に投す貴社若し女學雜誌餘白に御塡載の榮を賜はられ余か幸甚しと云ふ

男女配偶して一家を調理するや其權の異同ありと雖も其德の剛柔ありと雖も夫妻相資けて其家政を調理し偕老の快樂を全ふせんとするの點に至ては誰れか之れに異論を容るゝ者あらんや然るに我國女子の狀態は古來の習慣として兎角女子は男子と併行獨立すると能はさるの風俗にて自然其敎育をも十分に受けしめす世態人情をも知らす空しく閨中に蟄居して徒然に其日月を送らしむるを常とせり故に內政に關するの名あれ共終に其家事の實を知らず夫を助くるの務ありと雖も未た夫の職掌を窺ふ能はす家を守り飯を炊き衣を裁するの細事を務むるに過きす內を治むと云ふも未た外に應する能はす柔の德ありと雖も其剛に和するの功なきは豈遺憾千万と云ふへき也然らは則ち其弊を除き去りて眞に人の妻たるの職掌を盡さしめんには如何して可ならん女子の敎育を興すより急なるはなし然りと雖も是れは後來生立つ少女等の爲めにして既に人の妻たる者に廣く施こすこと能はさるを以て先つ夫妻同行と云ふとを世に盛んならしむるに增はなしと思料す

余の今夫妻同行と名くるものは凡そ人の夫たるものは日々其職務の爲めに東西に奔走する等は論の外なれ共其他親戚朋友を訪問するか或は演說を傍聽するか又は公園に遊ふ等何事に限らす貴賤上下の隔てなく平生交はる所の人の家に至る時は皆必す妻を携へ妻も亦其交はる所の人を訪ふ每に其夫を携ふへしと云ふの意なり然らは其夫妻同行は如何なる利益あるぞと云に余は之を八種として此の說を主張せんとす曰く夫妻の親愛を厚くすへし蓋し男女の室を同ふする其親愛の厚きは勿論なるへしと雖も若し夫れ之に加ふるに出ては袂を連ね出入步を同じふせは親愛の情更に幾層を增すへし曰く夫妻の品行を善良ならしむへし蓋し人の品行を破るは酒肆肉樓より盛ん

あるはなし然るに今出づるに必ず夫妻同行せは假令如何なる淫逸の人なるも流石に其婦女を携へて醉を買ひ妓を弄して度なき者はあらさるなり曰く嫉妬の源を絶つへし蓋し嫉妬なるものは固より夫妻の醜行に起り或は品行に疑ふ所あるに生ずるものなり然るに今出づるに必ず袂を連ね內に空房を守るの細君なく外に花柳を折るの良人なけれは固より內外顧慮するの疑念なし嫉妬亦何に依りてか起らん曰く親戚朋友の交情を厚ふすへし蓋し親戚朋友の相交はるは毫も內外表裏の隔てなく夫親しめば婦も亦た親しく父母交はれは子も亦交はりて永く交誼を全ふせんことを冀ふべきなり然るに夫は斷金の交あるも婦は其何人たるを知らず甚しきは親戚の間に於て未だ其婦女兒孫と相識らざるが如きものあり今親戚朋友の間に於て夫妻同行せば其夫妻をして鰥寡の身となるも舊交相親みて永く情誼を失はず眞に交際の實を得に至らん曰く婦女の卑屈心を脫せしむる也蓋し交際の道斯の如く開け且つ世態人情に通するときは魯翁の所謂賢を見ては齊からんを思ひ裁も亦之に倣はんとするの念を生じ人に對して耻るが如く又怖るゝが如き卑屈の態ありしを脫し漸やく進んで女子と雖ども決して男子に及ばざるの理なきを知るに至らん曰く配偶を求むるに容儀を擇ぶの弊を除くべし蓋し古來女子は只だ男子の玩弄物たるに過ぎず故に配偶を求むるに當りては其姸醜を擇んで其賢不肖を問はざるなり今其れ出ては手を携さへて親戚朋友に接し世態人情の談話をなし時として學術技藝の談に及ぶことあらば自から人々の品評も智識才能を是非するに至り容儀は第二段に下り第一に其智識才能を問ふに至るへし斯の如く利益あり而して之に由て家政も進むへく女子の敎育も盛んなるべく夫妻の利益は一家を興し一家萬家に及ぼして社會の洪益となるべし世婦女を携さへ步行するものなしとせず而して是れ只だ遊山見物に過ぎず偶々途上其親戚朋友に逢へば面を背むけて之に接せす夫は接待するも婦女は忸怩として側はらに潜み耻るか如く怖るゝか如く其誰人なるや知らざるもの比々皆是なり斯かる有樣に付男女同權を論ずるも未だ以て其益を見る能はざるなり故に余は先づ此の說を以て男女同權の結果を惹起すに足ることを證明せんとするなり

○生徒衣服改良捷徑　上六番町　田中常二郎

夫れ衣服は身躰に適し運動に便ならんことを要す而して我國從來の服裝たる長袖廣濶身躰に適せす運動に便ならず洋服の便且適切なるに如かざる宵壤なり是に於てか衣服改良論者四方

に起り新聞に演說に洋服の利を論談して止まず然れども其說や或る一小部にのみ行はれて其好果を奏するを得ず之れ何ぞ其價の貴ふして輙く之れを購求する能はざることと舊來の衣服をして空しく箱裏に收むるに忍びざることによればなり加之ならず居室未た其宜きを得ず何んぞ其服の改良を全することを得んや余多年兩袖を斷ち筒袖となす其身躰に適し運動に便に居家に自由なる未だ嘗て斯の如きの便服を見ざるなり以謂らく小學兒童洋服を新調する能はざるものをして此服を用ひしむるに若くはなし（女生の如き外見を厭はゞ昇降の際暫らく舊來の羽織を以て外部を被はゞ外見毫も異差を呈せさるを以て間の惡きこともなく彼の洋服の腰部の絞縮に過ぎ身躰に妨害あるに比せば却て其優るを見るも劣らさるなり）然り而して漸々之れか習慣を成さば促さずして衣服改良の良媒となり他日我文明を表現するの良新服を着るに至るの一大進歩を見るの捷徑とは信ずるなり業を小學に授くるの教員諸君よ余が言に採るあらば速に學童をして長袖を斷たしめよ

孔子の馬放れて稻を食へり農夫うち腹立だちて其馬を捕へてかへさず孔子即ち子貢を遣はして其馬をもとめ玉ふに子貢禮を厚くし利害を說て喩せども其人之を聽かずしていよ〳〵返す氣色なし力及ばされば立歸りて事の趣を申せしかば孔子亦馬飼をつかはして其馬を求めさし玉へば馬飼只だ一言をまじへて忽ち農夫に承知させ馬を牽立てゝ歸りしとかや子貢が說くところ拙くして馬飼が說ところ理あるにあらず所云る孔明儀が乳犢の鳴その淸角の操にまさるゆゑんなり

●新報

○高等女學校演說　高等女學校に於て催さるゝ預定の演說は前號新報に報じたる以後外山正一氏の（英學の大切）菊地大麓氏の（變化）等に關する演說ありたり外山氏の大意は先づ女子が英語を學ぶの目的如何を論じ次に只だ會話や手紙が自由に出來る程にて滿足しては相成らず從來婦人の智識の庫は全く閉ぢ込めてありしことなれども此よりは英語と云ふ鍵を以て之を開くやうに十分に勉强せざる可らず先づ歷史の如きは隨分女に面白きものなれども取分け小說類を差支なく讀み得るやうに致さねば不可なりと申さるゝにてありき。又菊地氏の大意は當今万事變化する時に當りて婦人の如きは頭より足に至るまで形に於て悉く變化するやうになりたるが其の間のいろ〳〵の者は固より從來女子の敎としたるものも隨て一變することゝなりたり故に今日は之れ古き敎が止で新しきが更に代て出來る場合ゆへ今日の先例如何にて未來への手本に善惡を殘すことゝなるべしとの主意にて且つ高等女學校は男子の方にて云はゞ帝國大學の如きものにて女生徒の依て倣ふ所なれば此校の生徒は任の重きを思ふて特更に注意せざるべからず世には男女を同じ者の樣に考へて間違を生ずることあり女は矢張り

ホーム即ち家内の主君となりて内を修ることを專らとするやうに心得ずんば宜しからず又セルフレスペクトと申す自尊の念を持ちて自分に基礎を置くやうなる覺悟がなくては不都合なりとて種々女生方の心得方を語られたる趣某處より報道

○成立學舎女子部　前號にも記載したる同部は去一日の午后二時より始業式を行れぬ來會者には辻文部次官中村議官穗積菊地櫻井の諸教授矢野商業學校長野村高等中學校長を初め紳士貴女無慮三百人にて樓上樓下人を以て滿ちたり定刻に至れば舎長中原貞七君先づ本部設立の主旨を述べられ次に野村彦四郎氏は簡短なる祝辭を以て女生諸氏を戒め爪生寅氏祝文を朗讀さる續て教授ジクソン男女教育に關する歐米の景況を演述あり次に坂谷芳郎氏は祝詞を述べ巖本善治は祝文を讀上げたる後ち霞か雲(風琴)櫻狩(箏曲)の二曲を歌て式を終る斯て樓の下には立食、點茶、等の饗應ありて來客をもてなされぬ

○明治女學校　府下九段坂下の明治女學校は木村熊二君校長となり島田三郎田口卯吉の兩君議員となりて洋婦人二名女教師五名教授を擔當し近來は益々隆盛の運に向へる所ろ此度更に多少の改正を施さるゝやの由にて弊社の巖本善治にも應分の盡力を致すべき樣委頼あり此校は元來故木村鐙子が非常の熱心を以て創立したるものにて同君の遺志を果さんことは巖本の常に忘れざる所なれば不才を顧みず遂に教頭の任を請けて向後專ら教育上の取締を爲すことに決し差當りハルリス氏一人を更に增聘して追て尚ほ外國教師を加ふるの準備を爲し又植村季野、井藤まさ、香坂とらの三君にも自今教授を委托し多少教則に改正を加へたり由て去四日より本日迄に定期の試驗を畢り一週間休課の後ち來十七日より新入生徒を募るべき由なり

因に云ふ、此度大隈重信君より年々金百圓宛を同校へ寄附さるゝ趣なり

○婦人矯風會　去三日午后二時より數寄屋橋會堂内に於て月次の例會を開かる井深せき子主會にて海老名みや子先づ矯風會運動の事に關する意見を演述あり次に田村直臣氏は米國に於ける諸婦人會の事業を述べて其運動の模樣を語らる當日は生憎雨天にて來會者も特の外少く合せて五十名に過ざりしかば議事を後會に殘して三時半散會ありぬ

○束髪　近來束髪の風いよ〱隆盛と相成に付吾社へ其結び方を問合はさるゝ向も少からず又束髪會の規則書等をも多く需め來らるゝとなるが近日渡邊鼎君著述の束髪案内を出版し

其中に束髪結び方及び束髪會の規則等を悉くしたれば右問合の方々は暫く其出版の成るを待ち右に依りて承知あらんことを乞ふ。因に云く在米渡邊鼎君より彼地束髪の風を報じ越されたるもの本誌の附録に見ゆ

○女子小學師範學科　去一日高等師範學校に於て同科の卒業生十六名に卒業證書を與へられぬ其人名左の如し

山口縣士族　多羅間しん
岐阜縣平民　遠山かふ
茨城縣平民　伊東いね
德島縣士族　日下あか
高知縣士族　清岡みつき
山口縣士族　頓野きよ
宮城縣平民　松田とき
北海道廳平民　波佐谷みち
山形縣平民　時岡くめ
山口縣平民　岡崎おりの
高知縣士族　多田さく
東京府士族　近藤いち
愛媛縣士族　三井よね
宮城縣士族　山内ふき
三重縣士族　吉田とみ
熊本縣士族　大野きく

○稽古所取締　政府にては女子敎育の事に深く注意せらるゝ處より私立女學校も多くなるに女子裁縫敎授、編物敎授等の類も追々其數を增したるが規則を正しくし男女の別を堅固に立つる等充分の取扱ひあるは格別若輕忽にして捨置ば音曲稽古所の如く往々弊害の起るとあらんとて其筋にては斯る敎授所に一定の法則を設け其弊を未萌に防がんと此頃其取調べに着手せられたりとの說あり

○養蠶所　青山宮益町の宮內省御用邸へ今度養蠶所を置かれ多くの工女を御雇入にて養蠶製絲の業を勤めさせらるゝ由に承はりしが此業を起されたるは或筋の御沙汰にて此製絲は織物に充てらるゝとか申す事あり

○婦人洋食會　伊藤伯の發意になりし同會は是迄食す嫌ひにて居給し華族方の令閨令孃にも加入の向ありて已に會員七十餘名に至りたれば上野公園の櫻花滿開の期を待ち觀花の宴を兼ね同所の精養軒にて該會員の貴夫人一同集會され盛んなる宴を催さるゝよし

○看病婦募集　芝愛宕下の東京慈惠醫院にては今度看護婦生徒及び看護婦を年齡二十歲以上三十歲以下の獨身者に限り試驗の上四十名を募集するよし

○女子裁縫學校　日本橋區兜町五番地加藤左馬次氏は其控家の手廣なるを幸ひ茲に敎場を取設け先つ近傍の婦人に說き京橋區木挽町一丁目の裁縫師上田政次郎氏を聘して敎師とし裁縫の術を敎へらるゝ由

○編物商會　日本橋區葺屋町の同商會にては今度府內各女學校と特約を結び女生徒の製する編物を一手に引請け販賣せんと目下奔走中なりと聞く

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○裁縫教授　府下各小學校の裁縫科にては以來ミシン一臺宛を備へ生徒へミシンの遣ひ方を教へ追ては洋服の裁縫をも教授することになるとか云ふ

○和樂會　今度高等女學校の教員並びに帝國大學教授諸氏が發意にて和樂會なる者を設立せしが其目的は會話、踏舞、音樂唱歌等の方法に依り善良なる交際の慣習を養成するにありて本會の監督及び事務は東京高等女學校及び帝國大學教授等より組成せる委員に托し會塲は高等女學校の教塲を借受け集會は一週間一回を以て通則とする由にて現今の委員は豐田芙雄子、武村千佐子、瓜生繁子、丸橋光子、鳩山春子、矢田部良吉、穗積陳重、櫻井錠二、箕作佳吉、鮫島晉の諸氏なりと云ふ

○高崎女子の友　は前號にも記せしが如く去三十一日午後二時より同所元町春靄館に於て開會式を施行せしに會員は定刻前より續々出會し百廿八名の多きに及べり坐定まるの後先づ三浦得一郎氏は幹事に代り該會設立の旨趣を述べ夫より不破きよ子杉田潮齋藤壬生雄の諸氏などの席上演説もあり弊社の瀧七藏も該會員諸子に望むと云ふ題にて一言を述べ當日の祝詞に代へたるよし又竹下群馬縣警部長守谷軍醫等も臨會せられ式全く終て一同へ茶菓を饗し散會せしは午後五時三十分比にて中々の盛會なりし由當今同會の幹事は五名にして三浦操子齋藤まつ子飯野萬世子小板橋いち子河野某なり而して此友の設立に關しては三浦得一郎氏同操子は殊の外に盡力ありし趣に承はる

○廢廓可否討論會　去月二十日名古屋大須境內寶生座に於て廢廓可否討論會なる者を開きたり當日の辨士は廢すべきの論者は大橋貞恭、鈴木恭卿、福岡祐次郎、鈴木盛公、杉本勝次郎の諸氏また廢す可らざる論者は伊東旭、相馬政德、德永恒、咄怪子、椿本松雪、伊東繁太郎、鈴木治義、櫻井志教の諸氏にて聽衆無慮一千五百餘人なりしが甲論し乙駁し互ひに辨論の盡ざるを以て終に聽衆中の廢すべきに同意の者は北側の二階へまた廢す可らさる說に賛成の者は東側の二階へ昇り其多數なる者を以て決を取る事に決し其旨會頭より聽衆に請求せしも一人として其意に同するものなかりしかば今回は陪席員なる者を聽衆に請求せし故之に應じて東二階に昇りし者九名あり依て會頭より可否を決せんことを請ひしが陪席員中又二派に分れ到底可否を決するも聽衆の聞入ざるを慮かり可否を云はずして預るべき旨を告げ遂に散會せり而して陪席員九名の中廢す可らざる說に同意の者五名ありしと愛知俳佳久道士より報道

○京都府立高等女學校　同校にては今度生徒五十名を募り洋服裁縫及び附屬品裁製且英學等を教授さるゝに付神戸居留地在留の獨逸人エス、テール氏を教師に雇入れ去る四月より授業を始められたり尤も今度募集せし生徒は幼年者のみに限らず長年の婦女にても志願者は應募を許す旨上下兩京區役所より各組戸長役場へ照會せられたるが故應募者は多く妻君抔にて幼年者は至つて少なきよし右に付便宜の爲め授業時間を毎日午後一時より五時迄となし滿一ヶ年の卒業と定められたり

○京都通信(去一日發)　當府立織殿にては此程より紋綾織、黑或ひは薄色等の女洋服地を多く織立居るよしあるが右は何れも女官の夏服に用ふるものありと○今度京都私立女學校と云へる校舍を上京區第三十組山本町四十五番戸に設置し婦女の教育をなし傍ら之に英語學及び西洋禮式並びに西洋料理法等をも教授したき旨校主攝津貫一郎氏より知事に出願せしに昨(三十一日)許可されたれば不日開校の運びに至るべし又同校の教員は林正躬、松宮伊三郎、門力松、雨森トシ、岡タキの諸氏ありと聞く○聖上　皇后宮陛下の當地御駐輦中盲啞院生徒が新古美術會に於て琴を奏し　皇后宮陛下の御賞譽を辱なふせし聞えありしより少し豐かなる家の娘は至る所何れも琴を習はざるなく一旦廢棄同樣の薄遇に陷りし品も此頃は非常なる高價となれり○近年西陣にて織出す女用冬洋服地は東京にて殊の外評判宜しく爲に紋織業の向は一時非常に忙しかりしが今度又夏服地にとて縮面の兩面更紗と金糸の絽を思ひ附き何れも見本數十種を此程東京へ向け送りたり○一月頃より大憤發にて大改革せし當地婦人の髷は我も〳〵と東京風に移りしかば一時は中插の笄、髷形根掛の類は相應に賣捌け在來の京都風の品は市在とも頓と賣行なく凡そ三割方も下落し同業者は餘程困難の樣子ありしが今日に至りて見ると東京風は一時の流行ともいふ有樣にて髪計り東京風に變りしも根性は矢張京都風にて中には髷は早く損ずるとか何とか言併べて又元の京都風に立返る向もありとぞ

○女子の衞生演說　此頃女子の衞生に注意し衞生演說抔に婦人の傍聽者多き事は前號にも記せしが去月二十八日午後六時より大坂土佐堀二丁目の青年會館にて開きたる大日本私立衞生會大坂支會の通常會には米國女教師ドーテー氏も出席し女服改良の事より其他女子に關する平易の演說をなし其他の會員にも多く女子衞生の事を演したれは傍聽者は男子より却て女子が多かりしと云ふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○婦人學習會　大坂東區平野町二丁目の同會ハ入會者非常に多く且場所に狹隘を覺ゆるより今度當分の內入會を謝絕するよし又高島中將、建野府知事の兩夫人、藤田傳三郎氏の令閨等も出席して非常に勉强ありと云ふ

○石井岩手縣知事の夫人　同夫人ハ知事と共に豫て上京中なりしが去る五日知事共々歸縣されたり其節同夫人にハ西洋婦人服數組と織物見本の切地等を多く携へ歸られしが聞く所によれバ歸縣の上ハ縣下の機場へ切見本を分配して洋服地に相當の織物を多く織らしむるの目的ありとか

○臨時縣會　高知縣會議員植木枝盛氏の發議にて同縣會より文部大臣へ建議せし高等女子學校設置の件ハ此程同大臣より認可ありしに付き不日臨時縣會を開き其設立に關する事柄を議するよし

○毛糸の造花　神戶下山手通七丁目柳陰書屋內の女學會にては近頃新たに毛糸を以て造花を編むヿを傳習中なりしが去月廿二日の日曜日並に翌廿三日の春季皇靈祭の兩日間右の造花と矢張同會員の物せる生花數十種を陳列して縱覽を許せしが造作の種類ハ佛手柑、牡丹、芍藥、百合、梅、藤、椿、杜若、薔薇、南天等にして孰れも見事に出來居りしと云ふ

○高等女學校　滋賀縣大津の有志者ハ今度同地に私立高等女學校を建設せんと目下頻りに盡力中なりと

○婦人交際會　三重縣安濃津始審裁判所長長沼東夫氏の夫人及び令孃の催しにて去月三十日同地公園俱樂部に於て題號の如き會を開きしに來會の貴婦人十餘名ありしと交際ハ男子のみの樣に思ひ居る地にて斯る催しのあるは實に意外の事なりと同地よりの來信中にあり

○北海道婦人の進步　北海道廳官吏諸氏の妻女達ハ岩村長官の令孃を始め井川、三浦、上村等の夫人の發企にて舊臘以來米國女教師スミス氏を聘し英語並びに女禮式等を學び居りしが追々加盟の婦人方增加し最早數十名の會員にありしに付き自今每月一回宛札幌偕樂園にて婦人懇親會を催す事にせし由

○新潟通信(去二日發)　新潟英和女學校の創立發起人ハ去三十日午後七時よりイタリヤ軒に集會して同校設立の事に付き諸般の事を議し且つ此程仙臺より來潟せし米國宣教師デフオレスト氏外二名及び當港在留の米國宣教師スカツダル氏並に區內の紳商數名を招き饗應せしが席上兩宣教師の演說もあり午後十一時頃散會せしと○新潟醫學校附屬產婆學校にては去三十日同校卒業生後藤テイ、佐々木スヨ、小倉シユン三名の卒

業證書授與式ありたり○東大畑通一番町の新潟製紙場にてハ尙一層抄紙業を擴めん爲め十五歳以上二十歳以下の婦女十名を募り三ヶ月間にて抄紙を授け成業の上ハ其技術により相當の日給を以て雇入るとの事なり云々

○婦人公務に參與す　滋賀縣栗田郡蜂屋村奥野彌一郎氏の妻某(三十年)ハ曾て同郡手原村小學校に授業生を勤め居りしが昨年學區改正の際解職となり其後ハ自家にて別に是ぞといふ業もなかりしが今度同郡二町村外十三ヶ村聯合戸長役塲の傭員となりて日々公務を取扱ひ居るよし

●束髮會記事　在米國桑港渡邊鼎氏より左の通信を得たれバ掲げて我會の姉妹諸君に報す　和崎義路

當地にて十八九才より以上の婦人の當時行ふ束髮ハ我會の雛形に在る英吉利結、上げ卷、及び渡邊卷の三種なり而して就中多きハ上げ卷にして次ハ渡邊卷次ハ英吉利結是なり又二十歳以下の女子ハ大抵三つ打に編みて長く下げ末端に(リボン)チ結び付者多し前髮ハ老幼に拘ハらず悉く切り下けあり(ヘーアピン)ハ多く水牛製の者及び尋常の鉄製の者なれとも稀にハ水牛製の(ヘーアピン)の頭に珊瑚珠等を附る者を見る

○(婦人衣服)の色ハ種々にして一定せざれとも其人に似合ふ者を採用し仕立ハ袴ハ一般に縦形に皺襞の在る者を用ゆ復腹部ハ今尙從前の如く細く緊迫すと雖も頻りに其の有害を論ずる者在るか故に現今ハ大に改良の緒に就き既に醫師及び學者等の婦人ハ甚だしく之を緊迫せずと云ふ

○婦人の襟ハ男子と同しく白の立襟を用ゆる者多し又襟の所に種々の留針を用ゆ

○上衣のボタンハ當時流行する者二種あり一ハ共切の包みボタンにして一ハ圓く大にして恰も日本の一錢銅貨若ハ五十錢銀貨に彷彿たるボタンにして或ハアルミ製者其他金銀銅製の者有り一個の價ハ五六錢より以上種々あり右二種共老幼に拘らす用ゆと雖も三十歳以上の婦人ハ主に包みボタンを用ひ三十歳以下の婦女子ハ貨幣狀の者を用ゆるを常とす(而シテ一列ノモノアリ又二列ニ附スル者アリ)襟の所に飾る蝶々形の飾りと襟の中央に附る者あり或ハ右或ハ左方又ハ胸の中央部に附る者ありて一定せす

○衣服の肩の附根ハ少し圓形のものあり或ひハ少し縫際の立ちたるものあり

○手套ハ服の色に類する色にして大抵皮を用ゆ

●正誤　本誌五十六號新報内仙台に於ける矯風會の一項は事實相違ある旨同會より申越に付取消す

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

社告

女學雜誌社

第四回點取文成績

第四回點取文題(日本婦人歎)に對し答文を寄せられたる者都合十四通中女流の手に成る者四通あり點撿の後左の三氏を甲乙丙の受點者とし各預定の賞酬を呈す

甲點　信濃諏訪郡長池村　牛山尹子
乙點　伊勢多氣郡八木戸村　小竹啓二郎
丙點　越後西頸城郡糸魚川　吉岡福藏

女學雜誌社

第五回點取文題

妓樓存廢論

右は我國妓樓の存廢の可否を論じ若し之を廢すべしとあらば併て之を廢止するの策を説き若し之を存すべしとして尙ほ更に現行の制度を改良するの點ありとせば亦併て之を論ずるに在り而して答案は可存論と可廢論との二種に分ち双方に甲乙の受點者を置くべし即ち調査の上甲點を受る者は女學雜誌三十冊を呈し乙點を受る者は同二十冊を呈す

右答文〆切時日を來る六月三十日と定む右日限後に到着する者は乍遺憾點撿の中に收めず

○書籍取次の事

弊社は看客の便利を圖り凡そ女學に關係ある書籍にして東京府下の書肆中にて出版したる者は一切無料にて取次郵送可仕候依て右注文の方は書名と出版者の宿所姓名とを合せて定價の金員を送附あるへし尤も大抵は其内にて郵送賃を辨じ申すとの雖も大部の書は別に送費を請求可致候(但し女學外の書籍と雖も時宜により右樣の取次可仕候也)

○雜誌切手の事

女學雜誌切手は女學雜誌五冊分より以上何冊分にても差出候四季折々の御遺物には至極適當の品と存じ候也

○書籍出版の事

弊社は女學に關係ある書籍を著作し玉ふ方々の便利を謀り適當の方法を以て其出版及發賣を擔任可致候尤も其方法は原稿一覧の上御相談仕候也

東京新橋日吉町八番地　女學雜誌社

廣告

小學生徒の賞品進呈物に適當の

良書出版

● 智惠の緒環(ちゑのをだまき)　全一冊　金六錢
● 小兒の世界(しようにのせかい)　全壹冊　金六錢
● 生徒の智囊(せいとのちのふ)　全壹冊　金六錢
● 學びの海(まなびのうみ)　全壹冊　金六錢

此書は小學生徒の正業を助くる爲に編纂せしものにして。ちゑ。。のをだまき。。。は通常の動植物を掲け一々之に壽を加へて説明を附し即ち庶物作の摸範を示し。小兒の世界。。。は實物談に渉り庶物の形狀性質を知るに便にす。生徒の智囊。。。は庶物の事實を説明し終りに戸外遊戯の方法を附し。學びのうみ。。。は物理談より歴史談修身談を簡易に説明して生徒の智識を研くに適せしむ故に此書を小學各級卒業の生徒或は幼年生への贈進等に用ふれば學事を助け智囊を滿たし漸次日常庶物の性質効用を始め物理上の事實を容易に曉り得るの良書なれは各親達は勿論學校等は幸ひに購求あれ

出版書肆　東京元大坂町十二番地　法木德兵衛

材料新誌 第一卷

演說著作

右は材料新誌第一號より九號に至る九冊を合して一卷とし使用の便を圖りたるもの也本誌のよく文人論客の需むる所に應ずるに足るとは今別に言はず

有新誌一號づゝの散本も何ほ殘余有之に付見本入用の方は一部代價として郵券十錢を送らるべし

東京新橋日吉町八番地　女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

通信女學講義録

第一卷發行

右彌よ出來に付來る十三日より配達す一册定價二十錢にして郵税を要せず凡て前金送附なき間は送らず○一册金二十錢○半年前金一圓○一年前金二圓

東京新橋日吉町八番地　女學雜誌社

船越鼎太郎君著

産婦小兒攝生法

（新著）一册十八錢郵税四錢

右は産婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き樣認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を鑑み專ら當今の養生法其道を盡さゞることを敎へたり故に月經の心得より、姙娠したるか否やを知ると、出産の期日を知る法、姙娠中の養生法、産後の養生法、赤子のとりあつかひ、乳を飮まする の間養生法、母の乳を用ひずして子供を育つる法等こと〴〵く信切に敎へたり世の母たらん人は何卒一册を座右に置きて最愛の生子を誤りて取扱ひ玉ふやうのことなからんを希ふ

（出版兼發賣）新橋日吉町八番地　女學雜誌社

六合雜誌

第七十五號　一册十錢無郵税。毎月一册發兌

東京瀧山町六番地　警醒社

近時佛敎論（植村正久）日本言語及文字論其二（高橋吾郎）哲學の目的及範圍（森田九万人）思想論（浮田和民）○ガスタバス、アドルフアス○雜録。昨年間學術の進歩、米國大學の宗敎

米國ケレー氏著○嚴本善治君譯

女之未來

定價三十錢（新版）

近頃婦人論盛んなるに付ては女は未來何如やうに成行べきや甚だ掛念すべきことあり由て此書は廣く各國の事情を探り未開時代の女の有樣より漸く文明諸國の現狀に移りて遂に今後女の位置何如に進歩すべきやを判斷せしものなり

東京神田雉子町　輿論社（大取次）女學雜誌社

發兌					
四月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
五月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	
六月。	四日	十一日	十八日	廿五日	
七月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日

定價			
一册。五錢	郵税。一錢	（但府内無郵税）	
十册。四十八錢郵税。十錢		（同前）	
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載するの場合に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割と定む

一行	一回	（廿七字詰）	前金拾錢
同	三回以上		一割引
同	六回以上		二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道徳なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町開々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新肴町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○東京本郷四丁目文壽堂○横濱住吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンポードー○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所
本局　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社
持主兼編輯　巖本善治
印刷　森田豐

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY